

こちら特報

19日の衆院法務委員会で最後の質問に立ち、「共謀罪」法案の採決を促す日本維新の会の丸山穂高氏（右発言席で起立）。民進党の逢坂誠二氏が立ち上がって抗議した



日本維新の会は「安倍自民党の別動隊」といっても過言ではない。最近の維新はそれを隠そうとしない。「共謀罪」法案の委員会質疑の打ち切りと採決を促したのは維新の議員だった。安倍晋三首相が憲法記念日に公表したビデオメッセージでは、九条への自衛隊明記とともに、維新印の教育無償化が盛り込まれ、改憲問題でも「自公維路線」が鮮明になっている。与党の翼賛勢力と見まわすばかりの「野党」に存在価値はあるのか。
(白名正和、三沢典丈)

「安倍自民の別動隊」維新考

共謀罪法案の採決が強行された十九日の衆院法務委員会での最後の質問に立ったのが、もともと委員外で代打の丸山穂高氏（維新）だ。満を持したように「これまで三十時間以上も質疑した。これ以上ヒント外れの、足を引く張ることが目的の質疑は必要ない。私の質疑後、直ちに採決を」と声を張り上げた。
即座に立ち上がって抗議した理事の逢坂誠二氏（民進）は「委員でもない人が委員会の当事者のように審議内容を批判し、さらに採決にまで言及するのは不届きなことだ。採決の要求はせめて、委員がするのが筋だ」と怒りが収まらない。

委員の藤野保史氏（共産）も「与党議員もやりたがらない役割を与党に代わって果たすとは許し難い。理事会の場でも維新は一貫して採決の実施を求め続けてきた。安倍政治の推進役、応援団だ」と断る。
維新所属の国会議員は衆

「カジノ」から与党化加速

院十五人、参院十二人の計二十七人で、衆参とも民進、共産に続く「野党」第三勢力。政府・与党に是非々々非々で臨む「責任野党」を自任していたが、ここへ来て与党化、もっと言えば「安倍自民党の別動隊」としての役回りが際立つ。

「別動隊」を強く印象づけたのが、カジノを含む「統合型リゾート施設（IR）」の整備を政府に促す議員立法「カジノ解禁法」だ。公明が慎重姿勢を崩さない中、自民、維新などの賛成で昨年十二月に成立。党議拘束を外して「自主投票」に追い込まれた公明議員の賛否は割れた。

「維新の議員の考え方は自民に非常に近い。かつて石原慎太郎氏が共同代表として参加していたことから明らかだ。自民の別動隊、二軍と言ってもいい。その側面が、共謀罪の審議をはじめとする最近の議論で出てきている」と看破するのは、「本会議欠席」問

除名・上西氏「改革イメージは幻想」

題で維新から除籍（除名）処分を受けた上西小百合衆院議員（無所属）だ。
上西氏は昨年、維新のある衆院議員から「自民に入りたい」と思っている。どうすれば入れるか」と相談を受けたという。「一部報道で民進の議員が維新議員に『自民に入れてもらえ』とやじを飛ばしたことを問題視されていたが、何にも間違っていない」

与党にとつては便利な存在だ。共謀罪法案の採決でも、維新の賛成によって「強行採決ではない」との理屈を与党に与えた。上西氏自身は共謀罪に反対だけに、古巣の現状に表情を曇らせる。維新には「改革」のイメージがあったが、幻想でしかなかった。自民と何ら変わらず、与党に利用されているだけだ。政権の言い訳に使われる野党など存在しない方がいい

与党は、共謀罪法案を二十三日の衆院本会議で可決し、参院に送付する方針だ。参院法務委員会委員の有田芳生氏（民進）は「維新が与党の先兵となっていることは否定できない。参院でもその役割を果たさずだ」と警戒する。

「共謀罪」採決へ口火